

地域再生計画（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）事後評価調査

【資料2-2】

都道府県名	長野県	事業実施主体	中野市	地域再生計画名	水清きふるさとの水質保全計画
計画期間	平成28年度～令和元年度	評価責任者	中野市くらしと文化部長 竹前 辰彦		

	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価			
		基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績		指標総数	達成数				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	汚水処理人口普及率の向上	95.8%	H26	96.0%	H30	96.4%	96.1%	R1	96.4%	○	3	1	最終目標を達成できており、今後も最終実績以上となるように水洗化の普及を図る。
	指標2	中野市人口ビジョン予測人口の減少数緩和	44,206人	H26	43,500人	H30	42,797人	43,400人	R1	42,390人	△			出生数の減少、転出者の増加等で目標値を達成できなかったが大幅な減少は緩和されていると判断する。
	指標3	し尿処理経費の削減	65,368千円	H26	75,000千円	H30	41,810千円	15,000千円	R1	66,433千円	△			令和元年12月に竣工し、稼働は4カ月弱程度であり、実際のし尿処理経費の比較は令和2年度決算により比較ができると想定される。 なお、令和元年度の経費については、他市のし尿処理施設を借用していた経費が主となり、最終目標値には届かなかった。今後は、経費削減ができるよう運営方法等を検討したい。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1													
	指標2													
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度(H30)	最終実績									
特別措置を適用して行う事業	浄化槽設置事業(個人設置型)		40基	8基	9基	し尿と雑排水を併せて処理する合併処理浄化槽の設置に対し補助事業を実施しているが、高齢化等により浄化槽を設置する者が減少してきており、広報誌やホームページで周知しているが、目標値には追いついておらず、今後は更なる周知を図ることとする。								
	公共下水道事業(し尿等投入施設)		1施設	0施設	1施設	当初計画(平成30年度末完成)から、既存下水道施設を利用する設計に大幅に見直したことから工期は令和元年12月と延長したが、建設費の削減が見込まれている。								
その他の事業	環境保全の意識啓発事業		環境祭を実施し、地域の自然環境を改めて認識し、その保全のための意識啓発を図る。(中野市単独事業)			環境祭を実施し、啓発実施団体(H28:27団体、H29:30団体)により、来場者(H28:1800人、H29:800人)に「楽しむ」ことをテーマに、体験・実演・映像等を多用して環境教育に努め、環境問題全般について周知・啓発を図った。 なお、H30は環境祭を実施してから10年を経過し、意識啓発がいきわたったと判断した事から実施せず、他の啓発として、人気イベントとなっているラフティング事業の募集案内と同時に市内小学校で、環境啓発パネルの展示を実施したことで、環境問題を意識したなかで、実際の自然の中でのラフティングを行えたことにより、つながりのある環境啓発が行えた。								
	水環境の体験型学習事業		千曲川でのラフティングにより、生態系の観察等を行う。(中野市単独事業)			ラフティングによる自然観察会を実施することで、多様な野生動植物が生育できる自然環境の大切さを認識する事に加え、これらを保護していく活動の必要性を理解することができ、また、ラフティングという子供が楽しみながらできる内容であるため、年々応募者数が増加している。(H28:351名、H29:380名、H30:383名、R1:270名) ※H28～30は応募用紙を小学生全員へ配布していたが、R1のみ各小学校の一画に応募用紙を置いた対応をしたところ、応募者が減となった。								
	若年層の女性の雇用促進事業		結婚・出産等を契機に家庭に入り、就職を希望する女性に対し、就職先で必要となる最低限の技能を習得させ、就職に繋げる。(中野市単独事業)			就職に繋げることにより、定住を促進させ人口の減少を抑制する。(H28～R1:受講者23名、就職者16名、就職率69.5%)								
計画外で独自に実施した事業	環境公害防止対策事業		公害の未然防止と環境の保全を図るため、騒音等の測定、河川等の水質の定期測定、環境公害防止指導員による地域のパトロールを実施した。			騒音等の測定は、沿道住居等の環境基準を達成するために市内2か所で自動車騒音常時監視調査を実施し、適応状態であった。 河川等の水質の定期測定は、主要河川(6水域河川)において、pH・SS・DO・BODの測定を実施し、水質の監視を常時実施し、水質保全等に寄与している。 地域のパトロールは、市で環境公害防止指導員14名を委嘱し、担当地区を巡回している。これにより、野外焼却、不法投棄等の情報収集を図り、環境公害防止に寄与している。								
	環境美化推進事業		衛生自治会組織による市内一斉清掃を実施した。			全市一斉の市民大清掃の日(春、秋の1日)を設定し、多くの市民の参加(世帯から1名)による清掃活動を実践することにより、より良い環境づくりと環境保全の思想を高め、市民ひとりひとりが自然を保護し、公害のない美しい環境のまちづくりの推進を図る事を目的に毎年実施しており、地域の環境保全等の意識が定着してきている。								
④評価方法	中野市環境審議会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。													
⑤事後評価の公表方法	中野市(環境課)のホームページに掲載													
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、地方創生汚水処理施設整備推進交付金を活用した汚水処理施設の効率的な整備を進めたことにより、快適な住環境整備等が実施でき、「住みよさで選ばれるまち」を目指し、移住促進も含め人口増を目指し、今後も循環型社会形成推進交付金等の補助金による浄化槽整備事業等を活用していく予定である。また、し尿処理経費の削減については、完成まで他市の施設を利用したため、借用経費が当初設定した最終目標値を大きく上回ってしまった。													
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、ほぼ円滑に整備は進んでいるが、個人型浄化槽の設置、人口の減少数緩和の数値の増加が著しい。このため、引き続き本地域再生計画に沿って事業を推進していき、中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略も活用しながら、目標値に近づけるよう事業等を実施していこうと考えている。 また、し尿等投入施設については、他市へのし尿等の投入に要する経費がR2年度から発生しないため、今年度において経費等縮小を考慮した運営を実施し、R3年度での当初目標と比較したいと考えている。													